

特定外来生物

オオクチバス

硬骨魚綱 スズキ目 サンフィッシュ科 *Micropterus salmoides*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

基礎情報

原産地

・カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部

現在の分布

- ・遊漁魚として移入され、世界各地で野生化している。
- ・国内では、全都道府県で生息が確認され、北海道を除く全国各地で広く定着している。
- ・県内では一部の市町村を除き、河川や池沼に広く定着している。

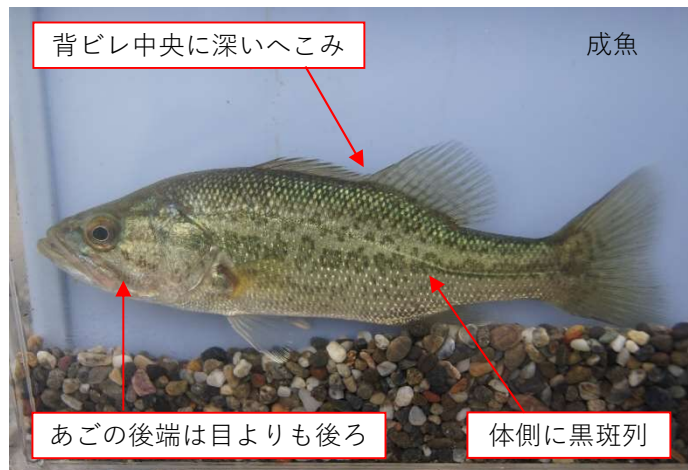


侵入の経緯

- ・食用・遊漁を目的として 1925 年に神奈川県芦ノ湖に導入された。
- ・釣り魚として人気があり、1970 年代から遊漁のための意図的な放流により急速に拡がり、2001 年には全都道府県で生息が確認された。本県では、1970 年代後半より豊田市を中心に生息記録がある。

形態

- ・成魚は体長 30～50cm 程度になる。最大で全長 97cm のものも報告されている。
- ・体高が低い。口は大きく、あごの後端は目よりも後ろにまで達する(幼魚を除く)。
- ・体色は緑褐色で、背部はやや暗色がかかり、腹部は白色に近い。体側に黒斑列があり、体側中央の 1 列が最も明瞭で縦帯状になる(特に幼魚で鮮明)。
- ・背ビレ中央に深いへこみがあり、前後に分かれているように見える。



稚魚



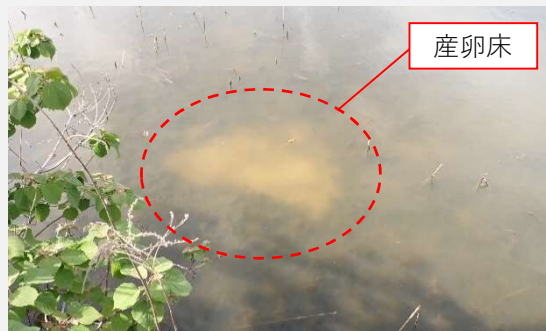
幼魚

生息環境

- ・池沼、ダム湖、堀、ため池、河川の中下流域など多様な水域に生息し、汽水域にも見られる。
- ・水草地帯や障害物のある岸辺近くを好む。

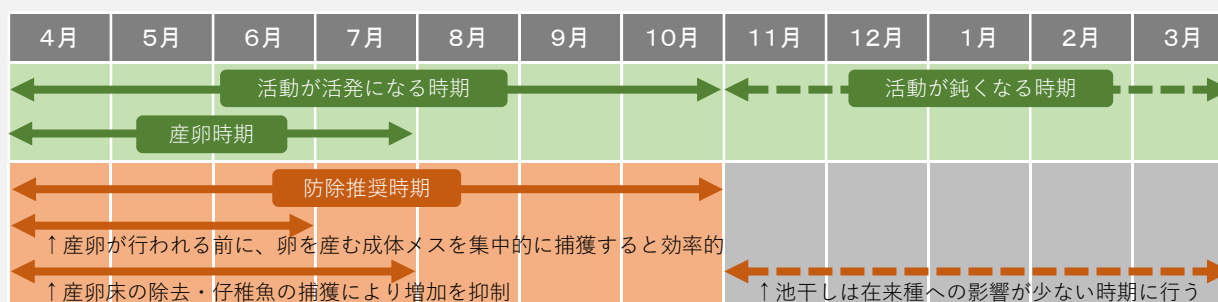
生態・ライフサイクル

- ・通常はオイカワ、ヨシノボリ類などの魚類やエビ類などの甲殻類を主食とし、その他水生昆虫や水面に落下した陸生昆虫、鳥のヒナまで捕食する。
- ・春から秋にかけて水草地帯や障害物のある岸辺近くで活発に餌を求めて動き回り、水温が 10℃前後になる晩秋には深いところへ移動し、厳寒期には沈木その他の障害物の間で群れをなして越冬する。
- ・表面水温が 15℃を超える 4～7 月頃に繁殖する。オスが砂礫底にすり鉢状の産卵床を掘り、そこで産卵が行われる。産卵後はオスが産卵床を守り、卵と仔稚魚を保護する。
- ・全長は 1 年で約 18cm、2 年で 25cm に達し成熟する。最大で 50cm を超えるが、最大級に達するまでには 6～7 年かかる。寿命は最長で 10 年以上となる。



オオクチバスの産卵床

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

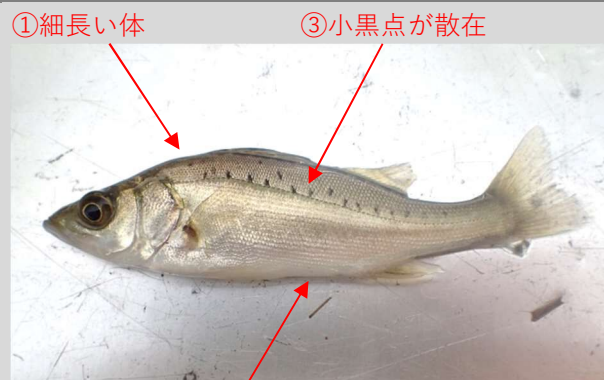
- ・類似種として、コクチバス(特定外来生物)がいる。
- ・海域および河川の中～下流域に生息する在来種のスズキ(セイゴ)も本種に似る。

コクチバス (特定外来生物)



- ①十数本の暗色横帯が背から腹方向に見られる。
- ②あごの後端は目の中央下付近にまで達する。
- ③背ビレ中央のへこみはそれほど深くない。

スズキ (在来種、海域および河川下流域に生息)



- ①体は全体的に細長く、体高は高くない。
- ②体側から腹部にかけて銀白色。
- ③背側や背ビレに小黑点が散在する個体もある。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・捕食や競争を通じ、魚類、甲殻類、水生昆虫、鳥類等、様々な生物に直接的または間接的な影響を及ぼす。捕食により小魚が激減した湖沼では、小魚をエサにしているコサギやカイツブリなどの水鳥が減少することもある。また、幼生期をハゼ類のヒレなどに寄生して過ごす貝類(ドブガイ等)の生活環が断たれ、さらに二枚貝を産卵場所とするタナゴ類に影響が波及している。
- ・水産有用種への食害、多数混獲されて操業に支障をきたすなどの漁業被害も報告されている。

生息・被害の確認方法

- ・水際を踏査し、水面近くを泳ぐ個体を目視確認する。水面から見ると体側の黒斑列が目立ち、尾ビレ後端が黒く見える個体が多い。双眼鏡等を併用するとよい。
- ・産卵時期に岸近くの浅い水底で産卵床を目視確認する。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。釣果の投稿サイトを調べることも有効。
- ・地域の住民、釣り人、漁業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



水面近くを泳ぐオオクチバス

防除方法

- ・本種を他の場所に放さないよう周知を徹底するとともに、釣り、ワナ、網、電気ショッカー、池干し等により捕獲する。
- ・産卵床の攪乱、卵の採取、産卵床を守る親魚の捕獲など、繁殖を妨害して個体数を減らす。

推奨時期

- ・水温が上がり活動が活発になる4～10月の防除が推奨される(水温が低い冬はほとんど活動しなくなる)。
- ・産卵が行われる前(春～初夏)に捕獲を実施すると、卵を産む成体メスを集中的に捕獲できる。
- ・産卵時期(4～7月)に産卵床の攪乱、卵の採取など、繁殖を妨害して個体数を減らす。

具体的な防除方法

①個体の捕獲

- ・釣り(ルアー釣りよりエサ釣りの方が効率がよい)、ワナ(アイカゴ、アナゴワナ、小型かごワナ、セルびんなど、51ページを参照)、網(刺網、投網、地引網、たも網、さで網など、55ページを参照)、電気ショッカー(可搬式、ショッカーボート)等により捕獲する。池沼では同時に池干しを行うと根絶の可能性が高くなる(47ページを参照)。
- ・捕獲した個体は原則としてその場で殺処理する。殺処理の方法として、氷締め、陸上での窒息、地中への埋設、物理的な殺処理などがある。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄する(各自治体の基準に従う)。食用とすることも可能だが、寄生虫対策として加熱処理が推奨される。

②繁殖の妨害

- ・産卵床に産卵された卵を取り除く、ふ化直後の仔稚魚をたも網等ですくい取る。
- ・人工産卵床を設置し、産卵された卵を駆除する。
- ・小型3枚網を産卵床を横断するように設置し、産卵床を守るオス親を捕獲する。

【人工産卵床】

概 要	オスが砂礫底にすり鉢状の産卵床を掘り、そこで産卵が行われる習性を利用。産卵に適した場所を人工的に用意し、産みつけられた卵をふ化前に取り除く。	
形状・作成手順	 人工産卵床 (写真は育苗箱 1 個の例)	【育苗箱 2 個を使用した例】 ①育苗箱(水稻用)の長辺側面を 1 辺切り取り、2 個を結束バンド等で連結する。 ②育苗箱の底にネットを敷く。 ③浮上しないよう、育苗箱に重りをつける。 ④産卵対象となる砂利(または人工芝)を敷き詰める。面積が大きいほど効果的。 ⑤四隅に引き上げ用のひもをつける。 ⑥設置場所が分かるよう、水面上の目印として空のペットボトル等をつける。
設置場所	対象魚の産卵場所の近くに設置する(産卵床がある場所、仔稚魚の群れが見られた場所)。バス類・ブルーギルは、一般に岸近くの浅場で、水底が砂礫質の環境に産卵床をつくる。	
設置期間	対象魚の産卵時期(オオクチバスの場合 4~7 月頃)に設置する。卵は 2~5 日でふ化するため、産卵の有無を頻繁に確認する必要がある。	
確認・回収の方法	人工産卵床を水上に引き上げ、産卵の有無を確認する。透明度の高い場所であれば水中観察用の箱メガネを使用できる。産卵が確認された場合、陸上に引き上げて碎石を入れ替える。または水とブラシ等で卵を洗い流し、洗い流した水を目の細かいザル等で受けて卵を取り除く。	
費 用	材料費 1,000~2,000 円程度で自作可能。	
留意事項	回収が間に合わないと、かえって増殖を手助けすることになってしまうため要注意。水底に設置する以外に、浮きをつけて水底から浮かせる方法もある(深い場所で有効)。	

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(行う場合は手続等が必要)。
- ・体表にぬめりがあるため、手をつかむ際には保護手袋(軍手等)を着用する。
- ・本種が生息する池には、水草や枯れ枝に引っかかったルアーやワーム、切れた釣り糸などが放置されていることがあるため、これらでケガをしないよう注意し、可能な限り回収する。
- ・触った後は必ず石けんなどを使って十分に手洗いを。



放置されたルアー

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 魚類 > オオクチバス (国立研究開発法人 国立環境研究所)
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50330.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > オオクチバス (環境省 自然環境局)
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-sa-07.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 魚類 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/5hp_gyorui.pdf
- ・オオクチバス等の防除の手引き(改訂版) (環境省 自然環境局, 2014)
- ・だれでもできる外来魚駆除 3~オオクチバス、コクチバス、ブルーギルの最新駆除マニュアル~ (水産庁・国立研究開発法人水産研究教育機構・全国内水面漁業協同組合連合会, 2021)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県, 2021) p.69 オオクチバス (谷口義則)

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物